４３．東海道(とうかいどう)―小夜(さよ)の中山道(なかやまみち)・金谷坂(かなやざか)・大井川川越遺跡(おおいがわかわごしいせき)

選定箇所：小夜の中山道（静岡県掛川市）、金谷坂、大井川川越道（島田市）

概要：東海道の遠江から駿河にかけては地形の変化に富み、小夜の中山道は遠江東部の峠越えの難所として知られ、古代より歌枕として古今集や西行法師の歌に詠み込まれている。また、建武２年（１３３５）の中先代の乱をはじめ合戦の舞台にもなった。金谷坂は牧之原台地から東に下る急坂であり、江戸時代末期に石畳が造成されている。大井川の川越しは、江戸時代に整備された東海道において、人足の肩車や連台に乗って渡る制度が整えられた特徴をもつ。東岸側には街道沿いに連なる川会所などの施設跡が残り、街道を含めて国史跡「島田宿大井川川越遺跡」として指定されている。

写真提供：島田市博物館